

# はこざきぐう 宮崎宮

所在地/福岡市  
指定/有形文化財



宮崎宮の門

博多湾は玄界灘へとつながる自然にできた大きな入り江です。海を行き来する船が、強風や荒波などを避けるにはとても良い立地をしているため、古くから博多沿岸を中心に大陸との行き来が盛んな場所として発展してきました。そのためか神話に登場したり、奈良・平安時代に大陸から来た人々をもてなす大きな施設がつけられたり、日本と中国を行き来した船が立ち寄りたりした歴史をもっています。

博多湾に面する箱崎にも古くからの港があり、集落ができていたそうです。現在の場所に宮崎宮ができたのは、約1100年前の平安時代の中頃にさかのぼります。宮崎宮は八幡宮とも呼ばれた神社であり、約1600年前、福岡で生まれたとされる応神天皇をまつっています。鎌倉時代、大陸からやって来た当時の中国の水軍が博多湾に入ると、一帯は戦場になって宮崎宮も焼けてしまいます。神社が博多湾に近く、国を守る重要な位置にあることから、亀山上皇は自ら筆をとり、再び戦争にならないように祈りを込めて、「敵国降伏」の書を宮崎宮に納めました。その後、神社は建替えられ、今の本殿は戦国大名の大内義隆によって1546年に建て直され、さらに二階建ての門は小早川隆景によって建て直されました。江戸時代の中頃、境内の西側正面に唐津街道という道路が通ると、門の前にある集落は宿場町の役割を担うようになり、博多への入口として町はにぎわいました。

宮崎宮では一年を通していろいろなお祭りが行われます。春秋には海辺の砂を竹かごにつめて身を清めるお潮井とり、秋には実りと生き物への感謝の気持ちを込めて開かれる放生会、正月3日には、締め込み姿の男たちが争奪戦をする玉せせりなど、地域とともにある伝統行事が伝わります。

## 【もっとくわしく調べたい】

○宮崎宮 福岡県福岡市東区箱崎1丁目22-1 TEL 092-641-7431

## 【行ってみたい】

○箱崎宮前駅から徒歩約5分